

## → 違い 2 災害時の避難方法を考えなくてはならない

地震や噴火、洪水などの自然災害や人災で、避難をしなくてはならない事態が近年多発しています。災害時には、飼っている動物は飼い主と一緒に避難すること(同行避難)にしている自治体が増えています。飼い主は、自分の犬や猫をどう運び、避難場所でどう世話をするのか、普段から考

え、キャリーバッグなど必要な資材をそろえておかなくてはなりません。万一の時、一人が連れて避難できる犬や猫の数は限られます。1頭なら速やかに避難できても、2頭、3頭と数が増えるほど難しくなっていきます。



## → 違い 3 動物同士の関係に気を配らなくてはならない

飼っている犬や猫が1頭だけのときは、「犬と人」または「猫と人」という関係だけですが、2頭以上になると、新たに「犬と犬」、「猫と猫」、犬と猫を飼っている場合は「犬と猫」の関係が生じます。この「動物同士の関係」は、人が一方的にコントロールできるものではありません。犬や猫には人と同じように個性や感情があり、相性の良し悪しがあ

ります。飼い主の関心や愛情をめぐって、動物同士で争いになることもあります。飼い主がそれを理解せずに無理に仲良くさせようとしたり、片方にばかり関心を払うと、動物同士の関係が混乱してトラブルや問題行動の元になってしまいます。動物同士の相性が悪く、仲良くならない場合は、別々に飼う方法も考えなくてはなりません。



### 事例

#### さびしいだろうと新しく猫を飼ったら仲が悪かったケース



オス猫(去勢済)とメス猫(不妊済)を飼っていたBさん。オス猫が病気で亡くなり、1頭になったメス猫がさびしいだろうと新しくオスの子猫をもらいうけました。メス猫は前のオス猫とグルーミングし合うなど、仲良くしていたのだから当然新しい猫も受け入れるだろうと思っていましたが、メス猫は新しく来た子猫を嫌ってタンスの裏に隠れたきり食餌もとらなくなってしまいました。子猫を別の部屋に移動させたらそっと出てきて餌を食べますが、すぐに隠れてしまいます。メス猫はストレスですっかり痩せ、トイレを我慢するので膀胱炎にもなってしまいました。半年たってもメス猫は新しい猫を受け入れず、結局、2頭は顔を合わせないように別々の部屋で飼う事になりました。前のように2頭でくっつき合って眠るような仲睦まじい関係を予想していたBさんは、手間も苦労も増えただけでした。

## → 違い 4 健康管理と食餌の管理が複雑になる

複数頭飼うと、普段からの健康の管理と予防、病気の早期発見、早期治療にいつもの注意が必要となります。1頭が伝染性の病気や寄生虫に感染したらすぐ他の犬や猫にも広がりますし、病気が人と動物の共通感染症であった場合には、人への感染の危険も高まります。病気の個体と健康な個

体を隔離したり、動物同士の関係ストレスによる病気も考えなくてはなりません。

普段の食餌の量や質なども、1頭1頭の年齢や健康状態に合わせてなくてはなりません。その管理は頭数が多くなるほど難しくなっていきます。

